

市指定文化財候補 阿保天神社 力石 調査経過報告

- 1 所在地 芦屋市上宮川町 7 - 1 1 阿保天神社境内
- 2 員数 6点
- 3 法量 ①67×37×32 ②62×38×33 ③60×41×26
④60×35×29 ⑤57×36×26 ⑥54×32×25 (cm)
- 4 概要 阿保天神社が西打出天満宮であったころから昭和初期にかけて、祭礼時、神社氏子衆によって行われていた「力くらべ」に使用された石。「力くらべ」では、個々が石を担ぎ上げたようで、それぞれの石に重量が刻まれている。現在、読み取れる銘文は①「五十㍎」、②「四十二㍎」の2点のみ。

5 調査経過

(1) 全国における力石の指定事例や指定にかかる価値付けの事例

No.	都道府県 市町村	指定 区分	名称	員数	指定 年	概要(各市町ホームページより抜粋)
1	福岡県 福岡市	市	有形民俗 志賀海神社の 力石	1個	H18	
2		市	有形民俗 若八幡宮の力 石	1個	H18	
3		市	有形民俗 住吉神社の力 石	1個	H18	
4	埼玉県 榑川市	町	有形民俗 竹間沢の力石	6点		歴史民俗資料館に屋外展示されている6点の力石は、元々竹間沢の個人宅や竹間神社にあったもので、平成29年度に寄贈された。三芳町内に残る数少ない文化財として貴重な資料であることから、今回一括して指定文化財となった。
5		市	有形民俗 稲荷神社の力 石	1点		稲荷神社の力石は、長さ1.25m、幅0.67mで、厚さ0.4mの雫のような形状の楕円形で、力石の中でもとても大きなものである。表面には「大磐石」の文字と、嘉永5年(1852)2月、岩槻の三ノ宮卯之助がこれを持ち上げたこと、続いて、当時の桶川宿の有力商人であった石工と世話人たちの名が刻まれている。三ノ宮卯之助(1807~1854)は、旧岩槻藩三野宮村(現越谷市)出身で、江戸へ出て勤進相撲をつとめ、江戸一番の力持ちと評判の力士である。三ノ宮卯之助の名が残る力石は、埼玉県内の他、千葉や神奈川、遠くは長野や兵庫でも確認されている。三ノ宮卯之助がこの力石を持ち上げた嘉永5年2月は、稲荷神社の大祭と考えられる。
6		市	有形民俗 上峰諏訪神社 の力石	2点	H10	諏訪神社に奉納された安永4年(1775年)の銘がある、40貫目(約150キログラム)と28貫目(約105キログラム)の2点の力石です。楕円形をした花崗岩には、それぞれ奉納年、村名、目方が刻まれています。上峰村の若者たちが重い石を持ち上げ、力試し・力競べをしたもので、江戸時代の村人の信仰と習俗を示す資料となっています。
7	越谷市	市	有形民俗 三ノ宮卯之助 銘の力石	6個	H25	
8	岡山県 笠岡市	県	有形民俗 笠岡港の力石 附沖仲仕の法 被・禪	(8点)	S58	笠岡港の東浜・西浜の浜仲仕(はまなかし)が身体を鍛えたり力技を競っていたもので、花崗岩製で97kgから206kgまでのものがあり、「力石」「要石」等の陰刻があるものもみられる。浜仲仕の着用していた法被(はっぴ)2着、禪(ふんどし)2本とともに保存されている。

(2) 力石を用いた祭礼の調査

聞き取り調査等継続中。新たな成果なし。引き続き調査。

(3) 力石の重さ

コンクリートで固定されているため、調査不可。